

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理学研究演習Ⅱ		
担当教員	福田 充		
対象学年	1年,2年	開講学期	後期
曜日・時限	水 2		
講義室	1210	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	危機管理学研究科 (MRMGT)		
科目中分類	修士		
科目小分類	4 統合演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（20%） DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（30%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（30%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（20%）		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関与しました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省や内閣官房では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関与しています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	■科目概要 危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自らテーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行う。本演習では、危機管理学、法学に関する研究論文の執筆にあたっての、論文のアウトライン策定と考察・叙述、ディスカッションの活性化、プレゼンテーションの実質化を含む基礎的研究プロセスを扱う。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とする。 ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析、プレゼンテーション		
授業の趣旨	■副題 オールハザード・アプローチによるリスクコミュニケーション研究の実施とデータ分析 ■授業の目的 修士論文の制作のために、危機管理学に関するリスクコミュニケーションの実証研究について、履修者全員で1つの共同研究を実施して、その調査の実施とデータ分析、調査結果のまとめと報告書レポートの作成までを経験することで、実証研究のプロセスを体得することを目的とします。 危機や社会課題を学術的に探求し、危機管理を解明し社会に普及させる「指導的人材」、危機管理の実践的知識を有する「高度専門職業人」を養成する人材育成に資する演習を実施します。 ■授業のポイント 修士論文の制作のため、共同研究テーマを決定し、実際の社会調査を実施することでアクティブラーニングにより、実証研究の方法とプロセスを学びます。。		
総合到達目標	■危機管理学及び法学に関する問題を論理的・批判的に考察することができる。 ・危機事態におけるリスクコミュニケーションの諸問題を認識し、課題を発見して認識することができる（第1回～15回）。 ・危機事態におけるリスクコミュニケーションを、自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・リスクコミュニケーションにおける課題について事例やデータを体系的に収集することができる（第1回～15回）。 ・リスクコミュニケーションにおける課題について、批判的に分析することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・リスクコミュニケーションに関する事象や理論を適切に理解し、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・リスクコミュニケーションに関する課題に対して、解決策を構築するための論理的な思考を展開することができる（第1回～15回）。 ・リスクコミュニケーションに関する課題に関して、社会に政策提言するための口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。		
成績評価方法	■研究室共同研究での研究作業（100%）（DP1, DP2, DP3, DP4） ・共同研究テーマの決定 ・問題意識の議論と共有 ・研究対象の設定 ・研究方法の選定 ・仮説の構築		

	・社会調査票の作成 ・社会調査の実施 ・社会調査データの分析と統計学的検討 ・レポート・報告書の作成 (評価の観点) 共同研究における関与度、積極性、リーダーシップ、データ分析の能力、レポート作成における論理性、独創性、発想力などを評価します。 (フィードバックの方法) 毎回、上記の作業を実施するたびに演習内で評価・議論を行います。	
履修条件	リスクコミュニケーションに関する修士論文を作成する意があること。	
履修上の注意点	教科書・参考書を積極的に読み、主体的に学ぶ姿勢が求められる。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 演習ガイダンス ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まず共同研究とは何か、ガイダンスを行います。こうした実証研究が社会においてどのように役立てられるかを考察し、学びます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	2	①授業テーマ 共同研究テーマに関する議論 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まずは共同研究のテーマについて自由に議論し、テーマの方向性を定めます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	3	①授業テーマ 共同研究テーマの決定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進める。共同研究テーマについて議論を整理し、テーマを決定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	4	①授業テーマ 問題意識の議論と共有 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマをもとに、現在なぜその研究が必要なのか、その研究にどのような社会的意義があるかを議論し、意識を共有します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	5	①授業テーマ 研究対象の設定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマにおける研究対象は何か、具体的な社会問題やトピックについて議論し、設定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	6	①授業テーマ 先行研究の収集と整理 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。先行研究を収集し、整理することで共同研究テーマにおいて必要なアプローチ、フォーカスをあてるべき重要課題について確立します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。

7	①授業テーマ 研究方法の選定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマにおいて、どのような社会調査を実施するか、またその社会調査の条件をどのように定めるか、調査対象者の選定、標本抽出法の選定、調査実施方法の選定を行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
8	①授業テーマ 仮説の構築 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究におけるリサーチエスチョンならびに理論仮説と作業仮説を構築して、ベストな調査方法を検討します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
9	①授業テーマ 社会調査票の作成 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。アンケート調査や実験、ヒアリング調査、フィールドワークで実施する調査票を作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進めます。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
10	①授業テーマ 社会調査の実施 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。実際に計画に基づいた社会調査を実施します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
11	①授業テーマ 調査データの整理と確定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査で収集したデータをクリーニングし、調査データと回収率、有効回答率などを確定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
12	①授業テーマ 単純集計結果の出力 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。調査データ分析として、単純集計結果（度数分布・平均値）を出し、結果を考察します。さらに調査結果からグラフを作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
13	①授業テーマ 多変量解析の出力 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。調査データ分析として、多変量解析のデータ分析を実施します。具体的には、クロス分析、分散分析、相関分析、因子分析、重回帰分析、パス解析などの多変量解析ならびにその統計的検定方法を学び、実施します。 ③予習（120分） 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
14	①授業テーマ 調査データ結果のまとめとレポート化

	②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。調査データ分析の結果をまとめ、レポートを作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究で実施した社会調査の分析結果を整理し、その結果を考察する。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
	15 ①授業テーマ 共同研究の振り返りと総括 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施と修士論文の作成のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究における実証研究の実施について振り返り、議論し、成果と反省点をまとめます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 共同研究で実施した社会調査の分析結果を整理し、その結果を考察する。 ④復習（120分） 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。
関連科目	リスクコミュニケーション特講、危機管理学方法論1（リスクリテラシー）
教科書	福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。 福田充『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜教科書として指定する。
参考書・参考URL	福田充『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）。 福田充『メディアとテロリズム』（新潮新書）。 福田充編『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜参考書として指定する。
連絡先・オフィスアワー	fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp オフィスアワーについてはオフィスアワー一覧を参照してください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%; パブリックセキュリティ25%; グローバルセキュリティ25%; 情報セキュリティ25% ■危機管理と法学のバランス 危機管理90%; 法学10%

